

日 時：令和6年2月13日（火）午後1時30分から

場 所：新居高校会議室

学校運営協議会委員：片山 雅博、中島 登代子、井原 裕司、谷 和憲、鈴木 勝士、小笠原 昌之
（敬称略）

参加者（学校）：校長、副校長、事務長、全日制教頭、定時制教頭、
全日制教務課長、生徒課長、進路課長、総務課長

◎校長挨拶

今年度もまとめの時期に入った。今年で創立96年目を迎えます。学校運営協議会の委員の方々は忌憚のない御意見をいただき、飛躍の年にしたい。

◎協議

○定時制自己評価報告・協議

学 校：行事を通じて共生に対する理解が進み、生徒自身の満足度が高く、保護者からも評価してくれている現状がある。

小笠原委員：これからも地域と連携を続けて欲しい。

井原委員：生徒会の運営に携わる生徒が増えたことはいいことである。

学 校：全体ではいい方向に向かっているが、言葉の壁もあり、個に応じた指導の難しさがある。これをどう改善していくかが次年度への課題である。

中島委員：1人ならどんな集団にもなじもうとするが、複数人いると馴染みのある方に人は流れる。行事を通じて色々な人達がお互いに理解し興味を持つことはいいことである。

○全日制自己評価報告・協議

中島委員：いじめに関しては件数ではなく、生徒が先生に相談できる方が大切である。

小笠原委員：学校が悪いわけではなく、学校であっただけ。親も学校のせいにしたがる。

鈴木委員：生徒が学校に話せる環境づくりこそ大切である。

片山委員：今の子は色々な出来事に対し、自ら処理できない面がある

中島委員：パワハラやセクハラといったことも人によってとらえ方が異なる。社会が変わってきている中で「いじめ」はその個人がどうとらえているかで決まってしまう。自分で解決できないために申し出をするなどアピールした者が勝ってしまう。出来ないことへの責任を転化してくる。大人と同じことを子供たちに言う必要はない。大人が解決しないでほおっておくと、子ども達だけで解決できたという話もある。

学 校：確かに自助力を削いでいるかもしれないが1つひとつ認知して対応していきたい。

中島委員：教員と生徒のアンケートに差があるものがあるが、何故か。

学 校：求めているものの差が出ていると考える。

片山委員：生徒の企業を選ぶにあたっての優先事項は何か。

学 校：保護者等の意見、業種、給与が大きなウェイトになっていると認識している。

小笠原委員：福祉コースに関する資格でも高校生が受検している資格もある。

J R東海株式会社との避難訓練は良かった。地元の自主防災との連携も積極的に行なって欲しい。

中島委員：海岸清掃に〇〇プロジェクトのように名前をつけたらどうか。その方が単年度ごとの事業ではなく継続しやすい。

鈴木委員：生徒に多少の失敗を経験させることも大事と考える。